新橋小学校
学校だより
令和４年８月３１日
令和４年度　第５号

「いつか来た道」「これから行く道」

校長　西尾琢郎

気象庁が正式に「異常気象」とコメントするほどの、暑く、激しい夏です。ここ数日、朝夕には、ほんのわずかに秋の気配を感じるようになってきましたが、長期予報ではこれからもなお厳しい残暑が続くことが予想されています。どうか引き続き健康に気をつけてお過ごしください。

さて、そんな厳しい気候の中、夏休みも終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。私たち教職員も元気百倍です！しかし世界に目を転じると、春先に始まったロシアとウクライナの戦争には未だ終結の糸口が見えず、広島・長崎が迎えた「原爆の日」にも、これまでにない危機感が感じられたように思います。先の大戦の歴史を巡る報道ではよく「いつか来た道」という言葉が使われます。これは、その時々のさまざまな社会のゆらぎを「もしかするとこれは、かつて戦争へと一気に傾いていった社会の様子に通じる兆候なのでは」といった「警鐘」として発せられてきたものです。

日本が戦った戦争が終わって 77 年、この間、多くの人たちの努力で、私たちは戦争の災禍を直接に受けることなく、豊かな生活を作り上げてきました。しかし先の大戦が始まる直前にも、豊かな文化が花開き、人びとが自由を謳歌した時代が、確かにあったのです。

海の向こうで起きているさまざまなできごとを「対岸の火事」と思うのではなく、私たちにとって大切な日常は、決して当たり前のものではないこと、それを守り、「いつか来た道」に踏み込むことを防げるのは、他でもない私たちなのだということを、改めて子どもたちと一緒に確かめ合っていきたいと思います。

３年ぶりの「行動制限のない夏休み」と言われながら、実際には前例のない感染拡大が生じているこの夏、私たちに求められていたのは、実は「自分の頭で考える」ことだったのではないか、と思っています。新型コロナウイルス感染症の流行拡大以降、矢継ぎ早に〇〇宣言、〇〇要請が出される中で、私たちは知らぬ間に「指示待ち」の状況に置かれ続けて来ました。「制限がない」ことは、「感染の心配がない」ことを意味するわけでもなければ「何をしても大丈夫」ということでもないことは、すでに感染者数が増えはじめていた夏のはじめには、分かっていたことです。

結果から言えば、現在の第７波と呼ばれる流行を引き起こしているウイルスの感染力は非常に高く、必ずしも個人の努力で防げるレベルでなかったのだろうとは思います。ですが、我が身を振り返ってみて、自分の行動が、他者からの指示頼みになっていなかったかどうか、改めて考えてみることも大切なのではないでしょうか。

学校にもさまざまなルールがあり、子どもたちはそれを守ることを求められながら過ごしています。それは社会でも同様で、お互いがルールを守ることで、秩序ある、暮らしやすい社会が維持されていることは確かです。しかしその一方で、「ルールに書かれていないことは、何をしても構わない」とばかりに、他者の思いや権利を侵すような行動が、次第に社会のあちこちで見られるようになっています。私たちはいつの間にか、ただ形式的にルールを守るばかりで、なぜそれが大切なのか、よりよくしていくことはできないかと、自分自身の頭で考えることを放棄してはいないでしょうか。そうした「ルール依存」の習慣が、実は学校での生活によって生み出されたり、強化されたりしてはいないか、私たちも自分ごとの課題として考え、取り組んでいきたいと思っています。

子どもたちが「これから行く道」を、よりよいものにしていくために、新橋小はこれからも、子どもたちと同じ目線で未来を見つめながら進んでいきます。保護者の皆さま、地域の皆さまも、ぜひその輪に加わって、共に活気ある、住みよい町とその未来を作ってまいりましょう。